

■□■受験対策ミニ講座 14 号 2018■□■

師走の風は冷たいけれど健康管理に気をつけながら、自分のペースを守って進んでいきましょう。今回は「試験によく出るアルファベットの略称」がテーマです。"英語は苦手"という人も A~Z の文字は知っているはず。少しだけ知識を上乗せすれば、グローバル時代のソーシャルワーカーとしての活動にきっと活かせると思います。

【問題 14 27 回 2】

国際生活機能分類 (ICF) に関して正しいものを 1 つ選べ。

- 1 機能障害とは、個人が何らかの生活・人生場面にかかわる時に経験する難しさのことである
- 2 参加とは生活・人生場面へのかかわりのことである
- 3 生活機能と障害の構成要素は、環境因子と個人因子である
- 4 背景因子の構成要素は、心身機能と身体構造、活動と参加である
- 5 ICF は、病気やその他の健康状態を病因論的な枠組みに立って分類したものである

正解と解説は最後に記載しています。

〔年末年始の休業について〕

下記の日程で通常業務を休業いたします。

ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

なお、12/28 以降、お問い合わせいただいた内容等につきましては、1 月 7 日 (月) 以降、順次ご回答いたします。

<休業期間>

2018 (平成 30) 年 12 月 29 日 (土) ~ 2019 (平成 31) 年 1 月 6 日 (日)

■Plus Column . . . . .

【意味を知れば世界は近づく】

頻出項目にはアルファベットの略称がたくさんありますが、ちょっと立ち止まって綴りを確認しておくこと、実力アップ...といっても大切なことは意味の理解。英語の試験ではないので、スペルを覚え込む必要はありません。

例えば、30 回試験で問題 3 と 問題 26 に登場した WHO 世界保健機関は、World Health Organization。伝染病対策など保健衛生指導を行う国連機関です。WHO は病気に関する世界共通の分類として、ICD 国際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems) を作成しました。I は国際、C は分類、D は病気・疾病ですね。

その ICD の補助分類として作成され、1980 年に発表されたのが ICIDH 国際障害分類 (International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps) です。二つ目の I は機能障害、D は能力障害、最後の H は社会的不利の意味で用いられています。

「障害とは何か」という考え方には国や地域によって違いがあるため、統一的な分類が示されたことは画期的なことであり、歓迎する声も多く聞かれました。しかし、同時に当事者や福祉関係者を中心に「ICIDH は医学モデルだ」とする批判が相次ぎました。疾病分類の補助分類ですから"医学モデル"であることは、ある意味、当然かもしれないのですが、時あたかも国連が定めた国際障害者年。ノーマライゼーションの気運が世界的に高まっていたという背景があります。

そして論議の末、2000 年に発表されたのが、ICF 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health) です。F の Function には、生活機能という日本語があてられました。実

際の分類表を見ると、日常生活動作から社会参加まで、実に細かい分類が示されていることがわかると思います。これが世界の共通語となり、各国の福祉施策に影響を与えているのです。このような経過から理解すると、略称も少し身近に感じられませんか？

ICFに直接関わる科目は「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」や「人体の構造と機能および疾病」はもちろん、「現代社会と福祉」、「福祉行財政と福祉計画」、「地域福祉の理論と方法」などですが、ICFの基本的な考え方は児童、高齢、就労支援サービス、更生保護制度等々ほとんどすべての分野・科目に共通するものとなっています。アルファベットの略称も敬遠するにはおよびません。世界は意外と私たちのすぐそばにあるのです。

■Back Number・・・・・・・・

過去のバックナンバーはこちら→[http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page\\_id=2686](http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686)

【問題 14 27 回 2 正解と解説】

- 1 ×機能障害ではなく、参加制約の説明。
- 2 ○
- 3 ×生活機能と障害ではなく、背景因子の構成要素。
- 4 ×背景因子の構成要素は、環境因子と個人因子。
- 5 ×ICF ではなく、ICD の説明。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus